特別企画 対談完全版

保険総合研究所 オーナー
清岡 正教

×

子安山 常解寺 住職
倉本 堯慧

×

保険総合研究所 代表取締役
清岡 義教

心と心が通う お付き合いが 日本を元気にする

HOKEN SOKEN
株式会社保険総合研究所®

特別対談 VOL.2 2012年1月発行

特 新春対談 別企画

保険総合研究所 オーナー 清岡 正教 × 子安山 帯解寺 住職 倉本 堯慧 × 保険総合研究所 代表取締役 清岡 義教

~心と心が通うお付き合いが、日本を元気にする~

清岡（代表）：当社のお客様として、また、家族の出産の際は安産をご祈祷いただくなど、公私ともに倉本様には、大変お世話になっております。いつもたくさんの方々で賑わっていらっしゃいますが、今年はNHK大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』の中で、江姫が安産祈願をされたゆかりの地として紹介されたこともあり、いつも以上にお忙しかったのではないでしょうか。

倉本：ありがたいことに、全国からたくさんの方々に来ていただいております。中には、北海道からみえられた方もいらっしゃって。後日、「お陰様で元気な子どもを授かりました」とのご連絡をいただいた時には、遠くからきていただいた甲斐があったと大変嬉しく思いました。

清岡（オーナー）：本日、取材で改めてお伺いするということで、帯解寺様の歴史を勉強し直したのですが、調べれば調べるほど、本当に素晴らしいお寺ですね。

倉本：ありがとうございます。当山は奈良時代、平城京を中心に栄えた南都六宗の一つ三論宗の本山で、勤操大徳（ごんぞうだいとく）の開基厳渕千坊の一つでございました。当時から安産や求子など女性の幸を願う寺として地元の方々から愛されておったようですが、開山から100年ほど経ちました奈良時代の終わりごろに、勤操大徳の元で修行をしていらした弘法大師さんが当山にも来られて「私も一つ女性の幸せを願ってご本尊をおつくりしよう」とつくられたのが、今のご本尊だといわれております。

そのありがたいお地蔵様は平安時代に評判になり、お世継ぎに恵まれないと悩んでおられた時の55代文徳天皇の后である、染殿皇后（藤原明子）が、宮中から長い道のりをお参りに来られました。染殿皇后は、お地蔵様のご利益を得て、のちに清和天皇となられたお世継ぎをご出産され、そのことを大変喜ばれた文徳天皇と染殿皇后の父君である藤原良房さんが、庵だった寺に伽羅を建立され、「安らかに帯が解けて安産できたありがたいお寺」として天皇の勅命で「帯解寺」とされ、世にで

倉本 堯慧

昭和21年1月30日生まれ（西暦1946年生まれ）65歳
昭和44年3月　慶応義塾大学文学部卒業
昭和46年5月　帯解寺にて東大寺管長（故上野澄園長老）戒師のもと出家受戒得度。
その後、伯父 室生寺大僧正故倉本春尚師並びに、高野山大阿闍梨故高見寛恭師指導のもと四度加行成満
昭和61年10月　東大寺真言院にて伝法灌頂を受け、阿闍梨の位を授かる。
（戒師前西大寺長老故松本実道師）
平成8年12月　帯解寺住職に就任
平成20年、21年度 奈良東ロータリークラブ会長

ることとなりました。

清岡（代表）：清和天皇といえば、清和源氏の祖といわれている方ですよね。ですから、帯解寺はその後、江姫など将軍家と深いかかわりができてくるのですね。

倉本：そのとおりです。清和天皇もこの帯解地蔵様をたいそう大事にされておられました。そのご縁で、代々の将軍様が信仰され、あまり記録には残っておりませんが足利将軍とのゆかりもあるそうです。NHKの大河ドラマで紹介されたとおり、江姫も秀忠公との間に女の子ばかりが生まれて、家康から世継ぎをとプレッシャーをかけられていたようですね。そこで、当山に参られてお生まれになったのが竹千代丸、後の三代家光公です。その家光公も跡継ぎで悩まれることとなり、乳母であった春日局と側室のお楽の方とともに当山にお参りになり、四代家綱公がお生まれになりました。二代三代と続いてご利益があったことを大変喜ばれ、200石という寺領をいただきました。当時、薬師寺が300石でしたので、そのお喜びのご様子がどれほどのものであったか、お分かりいただけるのではないでしょうか。

清岡（オーナー）：現皇后陛下である美智子様や、雅子様、紀子様のご懐妊の際にも腹帯を献上されたとお伺いしておりますが、全国にあまたある寺院の中からこちらが選ばれたという所以を、今のお話で納得いたしました。

保険の販売を通して感じる
互いを思い合う温かな気持ち

清岡（代表）：私も子どもを授かった時には、とにかく母子ともに元気に生まれてきてほしいと心から願い、こちらで安産祈願をしていただきました。今は、元気いっぱいに生まれてきたわが子が、この先もスクスクと成長していけるように導いてあげるためには、何をどう伝えていけばよいのか迷いながら子育てをしている状況です。

倉本：日本は明治以降、西洋的な考え方に無理やり変えられてしまいました。その思想が今、行き詰まりつつある一方、東洋的な思想が見直されはじめているのです。ある機関が世界の若者を対象に「自国を誇りに思い、自分に自信を持って生きているかどうか」というアンケートを行なったところ、アメリカは51.8%、中国は41.3%の人が「はい」と答えたのとは対照的に、日本は8.8%という大変問題な結果となってしまいました。日本人が本来大切にしてきた思想・道徳心を無理やり押し込められ、他国の思考を埋め込まれた今の日本人にはアイデンティティというものが欠落し、権利ばかりを主張し、義務を果たさない人が多いように感じています。清岡社長がおっしゃられたように、どう導いてあげればこれから世を背負う子どもたちが幸せに暮らしていけるのか、そのヒントは、自然や人に

感謝して与えることに重きを置き、心と心で繋がろうとする、日本古来の道徳心の復活にほかならないのではないかと思っています。

清岡（代表）：そのような混沌としている世の中ですが、私どもは、日々お客様に保険をご提案させていただくなかで、家族を思い合う温かな気持ちを感じます。不景気であれば、支出はなるべく抑えたいと思うのが心情です。最初は、できるだけ安い方がいいと保険料を重視される方も多いのですが、ご家族の夢やお子様にどのような教育をされたいかなどを深くお聞きしていく中で、ご家族の未来が具体的になり、家族のことを一番に考えた本当に必要な保険を探されるようになります。そんな日本人の本来あるべき姿で常にいられる世の中に一刻も早く戻れるよう、私も一日本人としてできることからしていこうと思っています。

清岡（オーナー）：保険は、困った時に助けられるものでなければならないんですよ。だからこそ、ちゃんとしたものでなければならないんです。

倉本：よいしょするわけではないですが、清岡さんがこれは絶対必要だと勧めてくださった保険のおかげで、損害を受けた際は補償していただき助かりました。本当にありがとうございます。

清岡（オーナー）：そう言っていただく時が、一番やっていてよかったと思う時ですね。以前とある老舗が全焼されて、何もかもすべて燃えてしまわれました。それを保険で再建してもう一度商売を大きくされたのが、本当に嬉しくて。

清岡（代表）：私も火事になられたことで、お店の導線などを見直されて、結果的にお商売を大きくされた方を知っています。

清岡（オーナー）：保険に入っていたことによって、災害を福にされるお客様もたくさん見てきました。保険は、また新たな一歩を踏み出す栄養剤的な役割を担えるんですよね。だからこそ、お客様にはどのような保険が必要なのかを私たちがしっかりご提案していかなければなりません。この40年、もしそこを見失って儲けに走り続けていたら、おそらく会社はとっくになくなっていたことでしょう。とにかく心と心が通うお付き合いをしていこうと、それだけは守ってきましたから。

倉本：私どもも、仏様の教えを皆さんに広めるためには、まずは私を信じてもらわないといけません。それこそ心と心のお付き合いです。お商売だけではなく、どんなことでもまずは信じてもらえるように一生懸命精進することが大切なんです。もっと大局的にものごとを見、そして人と人とが会話をして、古き良き日本の精神を取り戻していくべき時が来ているのではないでしょうか。まぁ、お地蔵様にじっとしておいてもらおうと思ったら、私が走り回らないといけないんでね（笑）。人々が安心して元気に暮らせる世の中になるように、私も奈良の地から色々と発信していきたいと思います。

清岡（代表）：そうですね、まずは私が走り回って一人でも多くの方と触れ合う中で、日本を元気にするヒントを見つけていければと思います。本日はお忙しい中、素敵なお話をありがとうございました。